

司式 杉山昌樹牧師

前 奏

奏楽 森永美保姉

開 会 招 詞 詩編24編7-10節

\* 賛 美 歌 2 : 1 (ソングシート)

1. 主のみいつとみさかえとをこえのかぎりたたえて、またき愛とひくきころ  
御座(みざ)にそなえひれふす。 アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去ってください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなたの賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

- あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
- あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないでおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたの父と母を敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたは姦淫してはならない。
- あなたは盗んではならない。
- あなたは隣人について偽証してはならない。
- あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 60 : 1

1. 生命の御言葉妙にくすし、見えざる御神の 旨を示し、仕えまつる道を教う。

(おりかえし)生命の御言葉 妙なるかな、生命の御言葉 くすしきかな。アーメン

共同の祈禱 救済史③アブラハム契約

全能の神さま、あなたは、アダムからキリスト・イエスの到来までのあらゆる時代に、神の民を保ち、導き、増し加え、み言葉を与えて死より命に呼び返されました。

あなたは、信仰の父アブラハムを選んでカルデヤのウルから召し出し、彼とその子孫に契約を与え、約束の地をお与えくださいました。

その契約はキリストにおいて果たされ、約束の地は神の国として実現したことを、心から感謝します。アーメン。(創世記12～22、ローマ4、ガラテヤ3、ヘブライ11、「聖書」一)

献 金 (黒) 教会活動・(赤) 札幌伝道所 70

今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

こどもプログラム

聖書朗読 箴言3章5-12節(旧約 p.993)

コロサイ3章18-4章1節(新約 p.372)

説教・祈祷 「キリストに結ばれて」 杉山昌樹牧師

\* 賛美歌 58:1、2

1. 神のめぐみは いとたかし、あおぐ高嶺の しらゆぎに あさ日匂える ヘルモンの山にもまさり たかきかな。

2. 神のめぐみは いとふかし、そこいも知れぬ うなばらに、 ゆうひかがやく ガリラヤの海にもまさり ふかきかな。アーメン

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあげさせたまえ

御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 67

主 イエスのめぐみよ、父のあいよ、みたまの力よ、 ああみさかえよ。アーメン

\* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老 (司会・受付 次週：古澤純一長老)

本日 受付 1階：加藤良明・大日南信也執事 2階：古澤迪子執事 / ZOOMホスト・録音：森川莞太

次週 受付 1階：藤井牧子・那珂信之執事 2階：星野房子執事 / ZOOMホスト・録音：大日南悠

※ グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります。

コロサイ3：18-4：1「キリストに結ばれて」

具体的なこと

先週も確認しましたように、このコロサイ書3章以下は、キリスト者としてこのように生きていこう、というかなり実践的な事柄を扱うところでした。そして、今までの所はどちらかと言いますと、教会とはこういうところだ、教会において、互いに赦し合い、イエス様の平和で心を支配していただいて、一つのキリストの体としての教会を立て上げていこう、そのために、愛の徳目を身に着けていこう、こういったことが教えられていたというようにまとめられるかもしれません。ところが、この3章の後半部分ではさらに踏み込んで、各家庭でのありかたについて語り始めていることに気付きます。

家庭について？

家庭というのは当然ですが、私的な領域です。そのような私的な領域について、教会があれこれと教えるのか、と思われた方もあるかもしれません。しかし、このところで意図されておりますことは、そのような意味、少々誇張して言いますと、教会が神の代理人のようになってある特定の生き方を押し付けていく、信者は、家庭ではこのように生きなさい、ということをお教える、というような考え方とは全く逆なものだと私は理解しています。むしろ、このところで言われておりますことは、誰でも、神様の前に立っている、この事実を確認しよう、という一言で説明できるものです。それは、例えば、先週読みました、17節の言葉にもみられる考え方です。もう一度読んでみます。「そして、何を話すにせよ、行うにせよ、すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父である神に感謝しなさい。」

(3：17)。わたしたちが具体的に生きる、話したり、行動したりする、その一切について、イエス様の名にふさわしく行っていこう、こういうのです。それは、突き詰めますと、私たちはいつでもイエス様の前に、神様の前に立っている、このことを言っているのです。

奴隷について

とはいえ、この個所で言われている言葉は、いささか時代がかっているようにも見えます。例えば奴隷という言葉です。奴隷制ということ言えば、それは全く許されるものではありません。ただ、あえて言いますと、現代では全く奴隷制は影を潜めて、ひどい抑圧は世界のどこからもなくなったのか、と言いますと必ずしもそうとばかりは言えません。例えば、日本に限りまして、サラリーマンの実質賃金が長期間低下している問題があり、サービス残業の問題があり、派遣労働者に対する待遇の問題があり、技能実習生の問題があります。それらしい法制度こそあっても、実際の所、ひどい搾取や暴力がまかり通っているのではないかと疑われる現実があります。奴隷制はなくなっても、奴隷的な何か、はいまも現実に存在しています。けれども、今日のこの聖書は、そのような抑圧に対して、立ち向かうことを主張していると私は考えています。そして、それを導く言葉はこの段落の中にちりばめられた「主」という言葉です。18節にあります「主を信じる者」、あるいは20節の「主に喜ばれる」、あるいは23節の「主に対してするように」、さらには4：1の「主人が天に」といった言葉が、この個所を貫く価値観になっているのです。それは先ほども確認しましたように、あなたは神様の前でどうするのか、という問いになっているのです。

服従ということ

それから、このところを読みます場合に全体として、もう一つ確認したいことがあります。それは、このところが、妻と夫、子どもと親、奴隷と主人、の並び順であり、それは一般的には、立場の弱いものと強いものの組み合わせで、その立場の弱いものへの命令がより言葉数多く丁寧になされているように見える、という点です。とりわけここでは、すべての関係で、「仕える」、ですとか「従う」、ということが言われていますから、ああ、古めかしい道徳が教えられているなあ、というように見えてしまうかもしれません。ただし、このことは、ある理解を持って眺めると、別の面が見えてくるかもしれません。それは、例えば、18節で命じられている「夫に仕えなさい」という言葉についてです。この言葉は、実はイエス様の行動についても同じ言葉が使われています。コリント書にこのような言葉があります。「すべてが御子に服従するとき、御子自身も、すべてを御自分に服従させてくださった方に服従

されます。神がすべてにおいてすべてとなられるためです。」（1コリ15：28）。

#### 主体は私自身-自由意志がある

これは、この世界が完成に至ったときには、イエス様がご自身の支配を、自分の意思で神様にお返しするだろう、ということを行っている箇所です。そして、実はこの妻たちに命じられた「仕えなさい」と訳された言葉は、全く同じ単語が使われています。そうしますと、この妻たちへの命令は、イエス様と同じように、全く自らの自由な判断において夫に従いなさい、ということになります。それはさらに言いますと、妻は、自分の意思をしっかりと持っている、決して、夫に比べて、理性が足りないわけでも、思考力が足りないわけでも、人格的に弱いわけでもなく、まったく対等な完全な人格を持つ者として、夫の前に立っていて、そのような対等な関係の中で、自分の判断によって夫に従うことができる、このように言っているのです。これは実は、他の関係においても基本的にあてはまる原則です。たとえ子供は、親に依存する弱い立場であるとしても、それだからといって、人格的に劣っていたり、一人前でなかったり、軽く見られていいものではありませんし、奴隷、現代に言い換えれば、サラリーマンは、労働者は、主人に、経営者に対して、一人の人格として、何ら欠けがあるわけでもないのです。むしろ、一人一人が、神様の前に一人の人として立っているのです。それは、4章1節の最後の所にもっともよく表れています、主人への言葉です。「あなた方にも主人が天にいる」、神様は一人一人を平等に見ておられる、その意味でみんな神様の前に、イエス様の前に立っているというのです。

#### 義務がある

そしてこの神様の前に生きている、という意味では、今お話ししました主人もそうですし、親も、また夫もまた、それぞれに神様に対して義務を負っているということが、ここでははっきりと書かれているのです。例えば、19節は夫たちに対する命令です。そこでは二つのことが言われています。一つは、妻を愛しなさい、というシンプルな命令です。しかし、この点でもいうべきことがあります。この所とよく似た箇所にエフェソ書5章22節以下があります。結婚式でよく読まれる箇所です。その部分を読みます。「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。」（5：25）。ここではっきりとしておりますのは、愛するというのは、観念的なことではなく、キリストが教会を愛するように、とはっきりと書いてあることです。それは、全身全霊をかけて、血を流して、命を与えてでも、愛する、ということです。キリストに従うものは、妻との関係において、そのような覚悟をもって愛するということが言われているのです。また、それだけではありません。さらにこれに続けて、「つらく当たってはいけない」とあります。辛辣な言葉を投げかけてはいけないのです。わざと妻を傷つけるような言葉を投げつけてはいけないのです。私たちはこの点でたびたび間違いを犯してしまうかもしれません。私自身、これはいけないと思わされることです。

#### 主に対して

さらに言えば、子どもに対しても全く同じように、「いらだたせてはいけない」とあります。子どもが不当さを感じるような言葉をかけてはいけないのです。これも実際には微妙なところがあるかもしれませんが。しかし少なくとも、親は、子どもの成長を促さない言葉、やる気を失わせるような言葉を語ってはいけないし、成長の芽を摘んでしまっただけはいけないというのです。このような言葉は主人への命令で頂点に達しています。もう一度4章1節を読みます。「主人たち、奴隷を正しく、公平に扱いなさい」。これは、言い換えますと、義を実現しろ、ということです。誰の目から見ても、そして何よりも神様の目から見て、自分を含めて、また、僕同士の関係も含めて、そこにすり合いが取れているような取り扱いをしなければならない、というのです。いずれにしても、大切なのは主の目に対してどうだろうか、という視点です。それで結局最初からお話ししていることに戻るのです。誰もが、一人の人として、神様の前に立っている、この事実をしっかり立つのです。

#### 誰でも裁かれる

それで、この事実は、誰にとっても何の区別もないのです。教会の牧師も役員も、誰でも、神様の前

に一人の人として生きている以上の存在ではないのです。牧師が、教会の権威で、あるいは役員が教会の権威で、このように家庭を治めましょう、と言って自分は知らん顔をしているなどということはあり得ませんし、それは皆さん一人一人にとっても同じです。私たちは、誰であっても、神様の目に喜ばれるように生きるなら、良い報いを受けます。それを言っているのが、24節の御国を受け継ぐ、という言葉です。これに対して、神様から離れるのであれば、不義の報いを受ける、と25節は語ります。教会の中であろうと、外であろうと、一日24時間いつでも、私たちは、この関係の中に生きています。わたしたちは、それぞれに、一人の人として神様の前に立つのです。そして、一人の人として、教会の内外で23節にありますように「心から行う」という態度で、与えられた人間関係に生きていくのです。

### 主の目のみ

それは一見しますと、窮屈な生き方のようにも感じられます。けれども、見方を変えますと、大変自由な生き方です。「主に対してするように、心から行う」ということは、いわゆる忖度とは、正反対の生き方だからです。24節に「あなた方は主キリストに仕えているのです」とある通りです。妻は、イエス様を信じる者にふさわしく、自由な選択として仕える生き方を生きるのですし、夫はイエス様がしたように妻を愛するのです。子どもは、イエス様と同じように神様が喜ぶことをなそうとするのですし、親は神様の前に子どもが一人の責任あるキリスト者となるように関わっていくのです。僕は、人の顔色などに左右されるのではなく、主に仕えることだけを考えていけばいいのです。主人はすでに確認した通り、具体的な関係の中で神の義を実現する義務を持つのです。

### キリストに結ばれて

そして、このことは、ただわたしたちがよく生きる、ということにとどまらないのです。このような神様の前に正しく生きようとする、教会でも、家庭でも、職場でも、そのようにしていく、ということは、神様の正しさを、社会の中で生き方で表していることになるのです。そして、今の時代こそ、このような正しさ、正義の実現が求められている時代はないのです。イエス様は私たちを通して働いてくださいます。わたしたちは、キリストに結ばれて神様の栄光を現わして具体的な毎日を生きていくのです。

### 祈り

父なる神様。聖名を賛美します。私たちは、天におられるあなたと、その右に座しておられるみ子イエス・キリストを見上げながら歩む生き方へとあなたによって召し出されました。それは、教会であろうと、その外であろうと変わるところなく、あなたにお仕えする歩みです。その中で、自由に生きる歩みです。どうぞ、この週の日々においても、わたしたちがこの招き入れられた道を力強く歩み、世に証しをしていくことができますようにお導き下さい。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。